

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890101656
事業所名	グループホームあいじゅ祝谷
(ユニット名)	愛
記入者(管理者)	
氏名	高尾 幸英
自己評価作成日	令和 3年 1月 15日

<p>【事業所理念】</p> <p>「我が家のような居心地の良いサービスをお届けします」を基本理念とし、愛言葉は ①愛する事を大切に ②思いやりや支え合いの気持ちを育み ③住み慣れた地域で愛ある暮らしを目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○職員は年2回自己評価チェックシートを用いた振り返りを行っているが、記入のみとなっており、自己の振り返りができていなかったため、年1回は各職員が他者評価もするようにしていく。次回は3月に実施する予定である。 ○居室の出入りについて、ノックをせずに入室することがあり、プライバシーに関して配慮不足な事があった為、勉強会で当事者体験を取り入れ実施する予定であるが、まだ実施できていない。 ○感染時期や重度の利用者等に関わらず、日常的に気軽な外出支援に取り組みできていなかったため、おむね月に1回ドライブ等外出する計画を立て実施できている。また、時々ではあるがテラスを用いてカフェを開くことも出来ている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のある建物は複合施設で、市中心部から少し離れた郊外の道路沿いに立地している。コロナ禍において、外出できる機会は減っているものの、天気の良い日には、敷地内の畑で野菜づくりをしたり、散歩を行ったりするなど、利用者が少しでも外気に触れ、気分転換が図れるよう努めている。また、音楽に合わせて3B体操をするほか、個別に脳トレや計算、ゲームなどを行い、利用者の心身機能の維持に努めている。オンライン機能を活用した面会や窓越しでの面会に対応するほか、毎月モニタリングの様式を家族に送付し、利用者の様子を伝えることができています。定期的に、事業所には複合施設の施設長の来訪があり、利用者の話や職員の声を聞くことができています。さらに、管理者も職員一人ひとりの表情を確認するとともに、声をかけて、悩みなどの相談に応じることができています。さらに、法人・事業所として、職員に希望休や有給休暇の取得を促したり、職員同士の感謝の気持ちを伝える「ありがとうの木」を作成したり、ボランティア活動などで、「愛ポイント」を貯めて、商品券と交換するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。加えて、コロナ禍以前は、複合施設の1階スペースを活用して、月1回、事業所として認知症カフェを行い、地域住民の相談等に応じることができていた。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	その人その人にあった暮らし方ができるよう希望や意向の把握に努めている。	○	/	○	入居前に、職員はアセスメントシートを活用して、利用者や家族から、職員は思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。また、日々の会話の中で、担当職員を中心に、利用者から思いや希望を聞き逃さないよう努めている。さらに、思いを言い表すことが難しい利用者には、職員から声をかけて、表情やしぐさから思いを汲み取るよう努めているほか、家族に電話連絡時等に確認をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な場合は、ご本人様の生活層等まえて検討させて頂いている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族様やご面会に来られる方にもご本人の思いについてお聞きし話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	ご本人様の思い等知り得た情報は記録に残し、情報共有できるよう取り組んでいるが、掘り下げた思いを聞く事ができていない。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員の思い込みや決め付けもみられるが、出来る限り思いを聞ける様、声掛けに努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	今までの生活層や、環境等ご家族様にお聞きしたり、居宅サービスを利用していたご利用者様については担当の方にもお話を聞き、出来る限り把握に努めている。	/	/	○	入居前に、事業所独自のアセスメントシートや基本情報シートを活用して、職員は利用者や家族から生活歴などを聞き、把握している。また、入居前に利用者が利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員から情報を聞いたり、病院からサマリーの提供を受けたりすることもある。さらに、日々の生活の中で、担当職員が利用者から情報を聞くほか、様子や状況を観察しながら、新たな情報の把握に努めている。加えて、把握した内容はアセスメントシート等に記載するとともに、介護計画の更新時に合わせて、担当職員を中心に、新たな情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日頃の状態観察や出来る事、出来ない事をサービス担当者会議等で共有し、把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	不安そうな表情が見られる時には声掛け等対応に努めて記録に残しているが、場所や場面等具体的には把握できていないと思う。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	△	不安や不安定になっている要因について職員間で話し合いを行っているが、不確定でありしっかり把握は出来ていないと思う。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	生活リズムを把握する為、24時間シートを活用し、把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	サービス担当者会議を定期的に開催し、ご本人様の視点で意見を出し合って検討を行っている。	/	/	○	事前に、職員は家族へ意向の確認に合わせて意見を聞くほか、受診時に主治医等から指示や意見を聞いている。また、事前に把握した情報をもとに、利用者が参加したサービス担当者会議を活用して職員間で話し合い、より良いサービス提供などを検討している。さらに、会議に参加していない職員には、事前に意見を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ご家族様にも面会時や電話にて、ご希望等お聞きし検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議で課題が明らかになって、介護計画に反映させている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人様の思いをなるべく反映させながら支援できる内容で作成している。				職員は家族から意見を聞くほか、受診時に主治医等からも意見を聞くことができています。また、利用者が参加したサービス担当者会議の中で、事前に把握した情報をもとに、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者が内容を取りまとめて、介護計画を作成している。さらに、利用者や家族から出された「日中に休む時間を取る、歩行練習を行う」などの意見を反映した計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々のケアについて、職員間で話し合ったり、ご家族様に状態等お伝えし、意見をお聞きし作成出来ていると思う。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人やご家族様の希望を取り入れた内容作りに努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	日頃からご家族様にご協力して頂けるような内容作りに動いている。今後地域の方たちの協力体制が出来るとも取り組んでいきたい。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	お一人お一人の介護計画を個人のケースファイルに入れ、いつでも内容が把握できるようにし職員間で共有している。				介護計画の内容は、サービス担当者会議の中で共有するとともに、ユニット内のスタッフルームに個別の記録ファイルを置き、職員はいつでも確認できるようにしている。また、介護計画のサービスの実施状況は、24時間シートに記載するほか、利用者の発した言葉や表情、しぐさなどを残すことができている。さらに、管理者等は、サービスの実施状況等が分かりやすいように、記録様式の変更を検討している。加えて、職員から「○○を取り入れた方がいいのでは」などの気づきやアイデアを出すことができているものの、介護経験の短い職員もおり、記録には個人差も見られる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日介護計画の実施状況を記録し、職員間で話し合い、状況観察に努めている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	お一人お一人の様子を、24時間シートを使用し、個別に記録を行っている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	お一人お一人について職員の気づき等24時間シートに個別に記録しているが、まだまだ少ないように思う。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直し出来ている。				◎ 短期目標の期間等に合わせて、3か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。毎月、担当職員が24時間シート等で利用者の状態を確認して、モニタリングで評価を行うとともに、計画作成担当者も評価とコメントを記載している。また、毎月の請求書の送付に合わせて、モニタリングの様式を家族に送付し、利用者の様子を伝えることができている。さらに、利用者の入退院などの状態に変化があった場合には、必要に応じて、サービス担当者会議を実施し、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを月に1回行い、確認出来ている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合、サービス担当者会議を行い、新しい介護計画を作成するよう努めている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月サービス担当者会議を開催し、チームで話し合いを行っている。また緊急時その都度開催できるよう努めている。				○ ユニット合同で、月1回フロア会議を開催するほか、介護計画の更新時期に合わせて、サービス担当者会議を開催し、職員間で話し合いをしている。緊急案件のある場合には、出勤職員等で話し合うとともに、感染症対策などの重要事項は、職員へ電話連絡をすることもある。また、月初めに、職員が参加しやすい日の調整を行い、15時30分頃から1時間程度の会議を設定しているものの、全ての職員の参加は難しいため、事前に参加できない職員の意見やコメントをもらっている。さらに、参加できない職員も合わせて、職員に会議録を回覧し、確認後には押印をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	出来る限り、たくさんの意見が出し合える様に、取り組んでいる。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	全ての職員が参加対象であり、日時・場所は決まっているが、業務時間内の為多くの職員の参加は困難である。なるべく各職員への聞き取りも取り入れている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	議事録を作成し、回覧したり書類を渡し、参加出来ない職員にも伝えるような体制作りを行っている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	情報伝達すべき内容は申し送りノートを使用し、情報共有できている。				○ 朝夕に申し送りをし、口頭で伝達をするほか、申し送りノートを活用している。また、日誌や申し送りノートは、出勤時などに職員は確認して、押印をしている。さらに、押印等のない場合は、管理者がノート等を確認するように職員に声かけや伝言を残し、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭申し送りだけでなく、重要な情報は申し送りノートを活用し、全ての職員に伝わるように努めている。	○			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	出来る限り、お一人お一人にご希望をお聞きする様に行っているが、なかなか叶えられていない。	/	/	/	日々の生活の中で、担当職員等が利用者から、「散歩したい、おはぎが食べたい」などの思いを聞き、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、入浴時の着替えやバスタオルなどを利用者によって決めてもらうほか、職員が利用者に声をかけて、ぬり絵や編み物などのレクリエーション、おやつ、翌日着る服などを自己決定してもらえよう努めている。さらに、事業所では、利用者一人ひとりの意向に沿った支援に努めるとともに、外に出て、花や野菜を見る場合には、生き活きたとした表情が見られるなど、喜びや楽しみのある支援にも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来る限りご本人様に、自己決定して頂ける様な声掛けを行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	思いやご希望をお伝えして頂けるような声掛けに努めているが、納得しながら暮らせてはいないと思う。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	お一人お一人のペースで支援出来ている時と、入浴など難しい場合がある。	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	毎日、お一人お一人に声掛けを行い、笑顔が見られる様な声掛けに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	出来る限り、ご本人様の表情の変化に気付けるような声掛けを行い、顔さ等で意向を確認出来る様になっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	自己評価を定期的に行っており、プライバシーについての勉強会や研修会への参加を促しているが、常に意識して出来ていない事がある。	◎	◎	◎	職員は、法人内研修や事業所の勉強会で、人権や尊厳などを学ぶことができている。また、介護経験のない新入職員もおり、ベテランの職員が認知症のことや声かけの仕方などの接遇方法を伝えることもできている。また、大きな声を出すなど、不適切な行為が起こらないように、職員同士で声をかけ合うなど、適切な対応ができるよう努めている。さらに、トイレや居室等を、職員はプライバシーのある空間と認識しており、入室の際には、声かけやノックをして入室するとともに、不在時に事前に利用者へ声をかけてから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	耳が聞こえにくいご利用者様に対して大きな声で対応してしまっていたり、周りまでしっかり配慮できていないことが時々ある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	△	プライバシー等に配慮して行っているが、職員全員がしっかりと行えてはいないと思う。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時にはノックを行い、居室に立ち入る際には声掛けを行っている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報は鍵が掛かる所で保管している。時々しまい忘れも見受けられる為、徹底して守るよう意識を深めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	ご利用者様に何か手伝っていただいた際にお礼を伝え、感謝する心を大切に、感謝している事を常に言葉にするよう努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたみ、食器洗いなど、利用者によって手伝わってもらった場合には、職員から「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、少し元気のない利用者にも、他の利用者が励ましの声をかけたり、口の周りを拭いたりするなど、利用者同士で支え合う場面も見られる。さらに、職員は利用者同士の関係性を把握し、座席などの配慮をしている。時には、認知症の進行から、利用者同士が言い合いになることもあるものの、早期に職員が間に入るなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ご利用者様同士が気が合うことがあり、支えあって生活出来るよう、楽しくお話ができる環境作りを努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	ご利用者様同士の関係性を把握、情報共有に努め日常生活での会話やレクリエーション、行事等を通して交流できる機会、環境作りを努め、お一人お一人、関わり、支え合い、共に生きていく共存を感じて頂けるような支援に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	共有スペースでの過ごし方についてトラブルが起こる事があり、職員同士で話し合いを行い、双方が納得できるよう支援に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前に生活歴をお聞きして把握出来るよう努めている。また、入所後もご利用者様との日々の会話やご家族様の来訪時に聞き得た情報から把握するよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前に地域との関係や、なじみの場所についてあらかじめ把握できている。日常会話などで細かいところは把握出来るよう努め、情報共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	以前住んでいた場所へお出かけ等され、今までの生きてこられた道を残せるよう可能な限り関係が途切れないよう支援に努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ご家族様や友人、知人の面会も多く、気軽に訪れて頂けるよう、入りやすい玄関作りを行ったり、居心地良く過ごせるような環境作りを工夫している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	気候の良い日は出来ていたが、今は寒さや感染時期の為にできていない。	○	○	○	コロナ禍においても、天気の良い日には、敷地内に出て、散歩や畑で野菜づくりを行い、利用者が少しでも外気に触れ、気分転換が図れるよう努めている。また、感染状況を見計らいながら、近隣の公園へ散歩に出かけたり、ドライブをして、さくらなどの花見に行ったりすることもできていた。さらに、事業所では外出できる機会が減っているものの、事業所内での体操や脳トレなどのアクティビティに、力を入れて取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	道後の足湯に行く際にホテルや旅館の方に連絡を取り、駐車スペースの相談などの協力を得ている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	冬場や、感染時期はできるだけ避けている為、今現在は積極的には行っていない。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	遠出は出来ていないが、ご利用者様の希望をお聞きしながら、行事計画を立案し、近くの地域である道後へ足湯へ行かれたりと、ご本人様の馴染みのある場所へお出掛けできるよう支援に努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	お一人お一人の行動把握に努め、ゆっくりと傾聴できる時間を見つけ、少しでも状態変化に対応出来る様支援に努めている。また、要因について職員間で話し合いを行い共有している。	/	/	/	事業所では、音楽に合わせて3B体操等をするほか、個別に脳トレや計算、ゲームなどを行い、利用者の心身機能の維持に努めている。また、足のむくみのある利用者には、医師の指示やアドバイスで、個別に足のマッサージなどを行う場合もある。さらに、食事の際などには、利用者のペースに合わせて、時間がかかっても自分で食べてもらい、見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ご本人様の出来ること、難しい事を把握し、出来る事はゆっくりとご自分で出来るよう見守りや声掛けに努め、難しいことは、難しい部分を介助し出来る所をご自分でして頂ける様声掛けをする等、低下ではなく維持出来るような支援に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご利用者様の行動を側から見守り、また職員の行動を見て頂き、一緒に同じ行動ができるよう支援し、手や口をすぐに出さない支援を心掛けている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	ご利用者様のお好きな事や、得意な事を把握し、それらを活かせるよう場面作り等に努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたみ、食器洗い、掃除、書道など、職員は利用者の得意なことを活かしながら、役割や出番づくりに努めている。また、編み物や裁縫が得意な利用者にも協力してもらい、防災頭巾を作成している。さらに、片麻痺のある利用者にも、ふきんを渡してテーブルを拭いてもらうなどの支援をすることもできている。加えて、コロナ禍で地域の文化祭が中止になったものの、開催の再開時の作品づくりに取り組んでいる利用者もいるなど、楽しみや張り合いが持てるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	レクリエーション等、計画を立て、日々の生活の中に楽しみが増えるよう支援に努めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	現在、地域の中で役割になる支援は出来ていないが、地域行事である盆踊りなどの楽しみは持たれている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人様、ご家族様に服装等を着られるか、どの様な物が好きなのかお聞きし、ご自分で選ばれたものを身に付けて頂ける様努めている。	/	/	/	前日の夜に、翌日に着る服を選んでもらい、自分で着替えや整容を整えている利用者もいる。また、食べこぼしや整容の乱れが見られた場合には、職員間で協力しながら、利用者に声をかけて、居室で着替えをしてもらうほか、さりげないフォローに努めている。さらに、意思を伝えにくい利用者には、家族に好みの服を持って来てもらったり、職員が声をかけて表情やしぐさから意向を汲み取ったりするなど、本人らしさが少しでも保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご本人様のご希望に応じ、持参物はお部屋に飾ったり、施設に来て下さる散髪屋にてご自分のお好きな髪形をご自分で伝えて頂いたりし、場面作りのご支援をさせて頂いている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	天候、気温、季節により衣類の調整を行っている。全てこちらで決めてしまうのではなく聞きながら提案をさせて頂きご本人様の希望に添えるよう支援に努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人様やご家族様にご希望をお聞きし、年間行事を取り込み、お一人お一人に合った服装を楽しんで頂けるようご支援に努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなくご自分で拭いて頂けるよう、タオルや紙をお渡ししたり、衣類の汚れも口には出さず、更衣して頂けるよう支援に努めている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人様のご希望により施設に来て下さる理髪店を利用し散髪や毛染め、パーマが出来る様支援している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	今現在、重度な状態の方はいらっしゃらないが、今後もご本人様やご家族様にご希望をお聞きしその方らしい身だしなみが保てるよう支援に努めていきたい。	/	/	○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の一連のプロセスの大切さを理解し、食事中にムセや問題ないか、お一人お一人の状態把握に努める様支援出来ている。	/	
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食事に関しては厨房での食事提供となっている為、買い物をご利用者様と共に実施できていない。おやつ作りなどの食事作り等の計画もあまりできていない為今後計画していきたい。	/	/	○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	水分補給後のコップの食器洗いなど、後片付けをして頂きご利用者様の発揮と達成感に努めている。	/	/	/			
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なものや、アレルギー等の有無は把握しており、厨房との連携や、おやつ提供時には配慮している。	/	/	/			
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	△	食事は厨房にて調理されている為、お一人お一人のお好きな物を提供する事は難しい。季節の食材は提供されている。	/	/	○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	ご利用者様に合わせた、食事形態や色とりどりの盛り付けができており、都度健康状態に合わせて話し合いを行い、厨房との連携を取るようになっている。	/	/	/			
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	厨房での食事提供となっており食器類は馴染みの物は使用していない。湯飲みのみご持参されたものを使用している。	/	/	○			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	ご利用者様と一緒に食事を食べていないが、見守りや、食べ方等のサポートとしてご支援させて頂いている。また、おやつ作り等をした時は一緒に食べている。	/	/	△			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今現在、それほど重度な利用者様はいらっしゃらないが、ご利用者様に当日のメニューを伝えたりして、料理を思い浮かべてもらっている。	◎	/	◎			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事は栄養士が考えて献立を作っている。水分の摂取しにくいご利用者様には声掛けやお好きな飲み物を提供し必要な水分量をとって頂ける様工夫している。	/	/	/			
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご家族様にご協力して頂き、ご本人様のお好きな食べ物や飲み物をご持参して頂いている。また、状態変化の見られるご利用者様に関しては話し合いを行い厨房と相談し食事形態の見直しを行っている。	/	/	/			
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	厨房からの食事提供の為、普段は出来ていないが、ホーム内の行事の時等は調理を行う為、栄養士と相談を行っている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房からの食事提供の為、任せている。その他ご家族様よりご本人様へのおやつのご持参物等はこちらで保管の為、期限や品質状態等に注意している。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後は必ず口腔ケアを行い、食べかすや食べ残しがないよう注意し、防止に努め重要性、必要性を理解している。				毎食後に、職員は声をかけ、利用者は居室の洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。また、職員は見守りを行い、必要に応じて、磨き残しなどのサポートをするほか、口腔ケアシートを活用して拭き取りをするなど、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。さらに、自分で歯磨きができる利用者を含め、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、不具合や訴えのある利用者には、訪問歯科診療等に繋げることができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口をあけて頂けない等の理由もあり、奥まで見る事が出来ず、全員の口腔内の把握は出来ていない。義歯については、把握に努めており、不具合等あれば歯科往診にて受診出来る様支援している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯医者には往診にて受診されている方は治療を受けているが以外の方は職員により口腔ケアをされるか、ご自身でされている。正しい方法については学べていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯を外して洗ったり、洗浄剤につける等支援している。上手く出来ない方には職員が付き添い、口腔ケアを行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めているが、お一人お一人には付き添える事が出来ていない為、全員の把握はしきれていない。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	何か状態変化が見られれば協力医療機関の歯医者やご家族様ご協力によりかかりつけの歯医者へ受診するように行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	自尊心を傷つけないトイレで排泄が出来るように支援しており、身体機能を高める事に繋がる事を理解している。				日中に紙パンツで過ごし、夜間のみ、おむつを使用している利用者もいる。24時間シートなどのチェック表で、利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、職員は声かけやトイレ誘導を行い、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、フロア会の中で、パッドや紙おむつなどの排泄用品の必要性などを話し合い、家族に確認の上で使用している。さらに、ごまめトイレ誘導を行うことで、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。加えて、事業所では運動や水分補給などの便秘対策で、自然排便ができるよう努めるとともに、利用者の体調面を考えて医師に相談を行い、下剤などの服薬をしている利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解をし、水分を多く摂取して頂けるよう声掛けをするなど、解消できるケアを心掛けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ご本人様の排泄のパターンを出来る限り把握に努め、ケアに努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	おむつ類の使用の必要性に関してごまめに見直しを行い、お一人お一人にあった使用やトイレ誘導を行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排尿間隔が空いているご利用者様に腹圧を掛ける等、ごまめに話し合いを行い少しでも改善できるよう取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	お一人お一人の排泄のパターンに合わせて声掛けを行いトイレへの誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族様や、職員間で話し合いを行い日頃のご利用者様の排泄のパターンを考え、お一人お一人に適切なオムツ類を使用できるよう支援に努めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	ご利用者様お一人お一人に合った下着や、オムツ類を適時使い分けるよう支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	自然排便が出来る様、飲食物の工夫を行ったり、日々のリハビリ体操等を用いて運動を心掛けられるよう支援に努めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	温度や、入浴時間の長さはお一人お一人のご希望に沿って入浴できるよう支援に努めているも、時間帯等は職員の業務のペースに合わせてしまう事が有る為余裕を持ってゆっくりと入浴して頂けるようにしていきたい。		◎	○	週2回、利用者は入浴することができる。事業所で入浴できる時間帯は決まっているものの、入浴時間の長さや湯の温度など、利用者の好みに応じて、柔軟に対応している。また、利用者にタオルを渡して全身を洗ってもらい、職員は洗えていない部分の介助をしている。さらに、「寒い、寝ておきたい」など、入浴を嫌う利用者には、職員が時間帯や日にちを変えて、声かけや誘い方を工夫するなど、入浴してもらうことができている。加えて、入浴剤や好みのシャンプーを使用するなど、利用者が入浴を楽しめる工夫にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	温度や入浴時間を把握し、ご本人様のペースに合わせてながら入浴していただけるよう支援に努めている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りご本人様に洗っていただける所は洗って頂き、全てを介助する事はしないよう安全に注意しながら入浴して頂けるよう支援に努めている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒まれる方に対して、原因や理由が理解できていない時がある為、ゆっくりと傾聴に努め無理強いする事なく時間を空けたりして気持ちよく入浴できるよう工夫をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前後の体調変化に注意し、入浴前には必ず血圧測定を行い、入浴後も変化があれば血圧測定をするようにし、状態変化に早めに気付ける様努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	お一人お一人の睡眠のパターンを24時間シートを用いる等し、把握に努めている。	/	/	/	事業所には、眠剤などを服用している利用者もいる。事業所では、24時間シートを活用して、利用者の睡眠状況を確認している。中には、昼夜逆転している利用者もあり、医師へ相談するほか、職員間で話し合い、日中には極力起きて、散歩や運動などの活動をしてもらい、夜間に安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日々の状況により眠れない日もある為、直接繋がる原因を探るのが難しいが、出来るだけ日中に活動して頂けるよう声掛けを行い取り組んでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	自然睡眠ができるよう日中の活動量を増やし、職員間で話し合いを行い検討しながら支援に努めている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	傾眠が強く見られる時は、状態に応じて20分から30分程度、少しでも臥床して頂けるよう支援に努めている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご家族様や大切な人に電話をしたい希望があった際には、お話できる環境を整えゆっくりお話が出来る様配慮している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	ご本人様にお電話があった際に、ご本人様とお話されるかお聞きする事はしているが、その他の支援はできていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	時間帯により、今すぐに掛ける事ができますという風にはできていないが、気兼ねなく電話が出来る様支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人様に了解のもと、拝見させて頂き、メモ等に残しておくようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人様にお電話があった際には次回もかけて頂きやすいよう受け答えに努めている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自分で好きな商品を選び、ご自分でお金を支払える様支援し、難しいことやご本人様が困っている所の支援をさせて頂いている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	移動スーパーが週2回のうち金曜日に来るので、ご本人様に確認し買い物される方はお連れしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	お買い物される方は、いつ移動スーパーが来るのか把握されている方もおり、気兼ねなくお買い物が出てくる。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お小遣いとして持っていたいただいている方はこちらでお預かりし、お渡しして、所持したり使える様支援しているが、全員ではない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご家族様の理解が出ている方のみ持たれており、ご本人様にもこちらでお預かりしている金額をお伝えし、残金がどの位あるか等は都度お伝えするようにしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	こちらでお預かりしている物に関しては、お小遣い帳としてこちらで記入している。それについてもご本人様、ご家族様に同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご家族様から、病院受診の同行を希望された場合には快く受けている。また、お薬のみを病院に取りに行く場合も職員で対応する場合がある。	◎	◎	コロナ禍において、事業所では面会や外出などの制限があるものの、利用者や家族の要望に応じて、可能な限り柔軟な対応をしている。また、「病院受診の希望、外に出たい」などの要望が出された場合には、職員が臨機応変に対応をしている。さらに、最近入居した利用者の家族から、「週1回、帰宅させてほしい」などの要望が出され、コロナ禍の落ち着いた際には、対応を予定している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	グループホームの入り口に季節の飾り付けをして工夫している。	◎	◎	○	事業所は複合施設の2階にあるものの、1階には複合施設の事務所があり、来訪者には職員が声をかけてくれるようになっている。また、複合施設は道路沿いにあり、分かりやすい場所に立地している。さらに、2階の事業所の入り口には、飾り付けを行い、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ご利用者様とご一緒に作成した物を飾ったり、季節ごとの飾り付けを行い、居室はご本人様お一人お一人住み慣れた、馴染みのある物を置き、家庭で過ごされる事を感じて頂ける様工夫している。	◎	◎	○	まもなく4年を迎える事業所は新しく、職員が清掃や消毒を行うほか、空気清浄機などを置いて換気が行われ、快適な空間となっている。職員はこまめに清掃を行い、いやな臭いがしないよう努めている。また、廊下などには極力物を置かず、動線を確保するとともに、所々にソファを置き、利用者が座って休憩できるようにしている。さらに、複合施設の敷地内には畑や花壇があり、利用者が大根などの野菜づくりを行い、収穫を楽しむこともある。加えて、事業所では、季節に応じた飾り付けを行い、利用者や来訪者が季節を感じられるよう工夫している。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	目に入った汚れ等はその都度片付けるようにしている。また館内には音楽を流したり、トイレには消臭剤等を置き、臭いがない様工夫している。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	全ての食事作りは出来ないが、ご飯はユニット内で炊くように匂いを感じて頂けるようにしている。行事で生け花を取り入れ季節の花の香りを感じて頂ける様にしている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでの席を配慮し、ご利用者様の意見を取り入れ、席決めを行っている。居室内で過ごして頂いている時も時間を見て訪室させて頂き、声掛けを行いお話しするようにしている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	浴室はリビング内からは見えず、トイレは全面にあるが、戸は必ず開めるように配慮している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご本人様や、ご家族様とご相談し、昔から使われていた物等ご持参して頂き居室内を住み慣れた環境に近づける様工夫している。またご家族様のお写真等置き、安心できる様している。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、洗面台、整理ダンス、クローゼットが備え付けられている。また、入居時に、事業所では馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができることを伝え、家族の写真やテーブルなどを持ち込み、居心地良い空間づくりをしている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ご家族様ご協力のもと、洗面台の前に椅子を用意して身支度ができるよう配慮させて頂いている。また、建物内部に障害物を取り除く等安全に配慮している。				○	事業所の建物は新しく、手すりが設置されているほか、段差がないバリアフリー構造で、利用者は安心安全に移動することができる。また、入居間もない利用者には、居室の入り口に名前などの目印を付けるほか、トイレを大きく表示するなど、間違えないよう工夫している。さらに、フロアには、編み物などの本やCDラジカセを置き、利用者が自由に手に取れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	食べ物以外のものを口に入れられる事で、危険があり、また職員が止める事によりご利用者様への不安や混乱を煽ってしまう恐れがある為、未然に防げるよう注意したり、居室等へ物を置かないよう配慮している。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ご利用者様の好きな事を行事に取り入れ、お花が好きな方であれば生け花をし、居室に飾られたり、ご本人様が昔から読まれていた新聞や本をリビングや、居室内に置きいつでも好きな時に読めるよう工夫している。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	施錠をしなければいけない事、それによりご利用者様への帰宅願望等が強まる事を理解しており、臨機応変に対応はしているが、外出や帰宅願望が強い方もおられる為、弊害を免れる事が難しい状況である。	◎	◎	○	複合施設の玄関や出入り口は、オートロックの構造となっており、入居時に、事業所では利用者の安全面等を考えて、事業所の出入り口をロックしていることを家族に説明をしている。また、扉の近くに来る利用者や外に出たい利用者には、職員が付き添い、敷地内などを散歩するなどの対応をしている。さらに、定期的に身体拘束等の勉強会を実施し、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族様とご相談させて頂きながら、自由な暮らしや生活をする上で安全確保を優先させて頂く事をご理解して頂いている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	建物上、施錠されるようになっているが、外出、帰宅願望の強い方がおられる為施錠は必ずするようになっている。行事や気分転換を兼ねて散歩を行いなるべく、外の空気に触れ生活に圧迫のないよう工夫し努めている。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシートや基本情報にてご利用者様の状態や、現状把握に努めており、また、情報共有に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日血圧測定や、水分、食事量、排便確認等を行い、変化が見られれば記録に残し、必ず職員全員が情報共有できるよう申し送りを行っている。				
		c	気になる事があれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事があればかかりつけ医の往診時や急を要するようであれば、報告、連絡を行い相談させて頂いている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	ご本人様や、ご家族様がご希望される医療機関や、医師を受診できるよう、昔からのかかりつけ医がおられる方はそのまま継続してご家族様ご協力のもと受診できるよう支援に努めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人様、ご家族様のご希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医を受診されるよう、また、医師との関係性を築ける様に努め支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の仕方について、その都度ご本人様、ご家族様とご相談させて頂きながら臨機応変な対応を取れるよう話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時、ご本人様のストレスや負担を軽減出来る様医療機関や医師への情報提供を必ず行う様になっている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	安心して治療でき、早期退院に向けて病院関係者や協力医療機関のかかりつけ医と話し合い等を行えるよう連絡を取り合い相談を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院された場合に備えて、日頃から協力医療機関や、かかりつけ医との話し合い等をご家族様も交えて行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	グループホームの職員として看護師はいないが、協力医療機関である病院に月2回往診に入って頂き、相談等を行っている。それ以外で何か状態変化等見られればご連絡させて頂き、報告や相談を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医療機関である病院へ24時間いつでも連絡可能な体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日血圧測定を行い、変動や経過観察を要している方はその都度再測定を行い、変化があれば協力医療機関へ報告する体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者ご使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	全ての職員がご利用者様のお薬について把握は出来ておらず、現在は管理者、計画作成担当者により、薬の仕分けを行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	誤薬がない様服薬時には必ずダブルチェックをする様にしている。また、飲み忘れがない様に薬の空袋の最終チェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更等があった際には経過観察し、少しでも変化がみられたら、協力医療機関へ報告、相談をする様にしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬時にはご本人様への確認も行き、服薬支援している。ご本人様の状態変化があれば24時間シートに記入し、ご家族や医師に相談し早期対応に努めている。				

愛媛県グループホーム あいじゅ祝谷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、契約時にはお話をさせて頂き、状態変化等あれば都度、ご報告、ご相談させて頂き、協力医療機関の医師を交えてお話をさせて頂いている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応及び看取りに関する方針」があり、入居時に家族に説明し、意向などを確認している。また、利用者の状態の変化に応じて、家族等に意向を確認するほか、医師等を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、開設して約4年を迎える事業所では、看取り介護の経験は少ないものの、ここ1年で1件の看取り支援があり、職員への研修を行うとともに、複合施設の看護師や医師と連携を図りながら支援を行うことができた。加えて、医師と24時間体制で連携を図ることができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ご本人様、ご家族様はもちろん、職員やかかりつけ医と話し合いを行った内容や方針を全員が把握出来る様になっている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	職員の思いは把握できているが、力量はまだ現段階でしか把握できていない。今後向上していきける様日々のケアについて指導していければと思う。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来る事、出来ない事への説明はさせて頂き、理解も得ているが、急を要する場合には臨機応変の対応を取るよう心掛けている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	ご家族様のご協力は得られているが、チームとしてはまだ、成り立っていない所があり、職員同士の連携を強めていく必要がある。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族様の思いや、ご家族様の事情等、お話しして頂ける様、その都度しっかり傾聴に努め少しでも支えになれる様心掛けている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症に関して研修などで勉強会を実施している。また、ご利用者様に疥癬の診断が出た場合にも、対応方法など職員全員で把握出来る様情報共有を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	手順書を感染症キット保管場所にラミネートと一緒に置くよう作成しているが、本年度はグループホームで勉強会を行っておらず、今後実施していく必要がある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政等の予防や案内を入手して取り入れたり、また状況把握に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	愛寿会で感染症、発生状況等閲覧し、流行に随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいを必ず行うよう指導を徹底している。また、来訪者もマスク着用や入り口にて消毒して頂くよう消毒液を配置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族様の考えや意見、ご本人様のご希望を把握出来る様連絡をこまめに取り、一緒に支えていく関係作りを努めている。	/	/	/	コロナ禍において、家族が来訪できる機会は減少しているものの、オンラインを活用した面会や窓越しでの面会にも対応をしている。また、毎月の請求書の送付に合わせて、モニタリングの様式を家族に送付し、利用者の様子を伝えるとともに、電話でも報告をしている。さらに、複合施設として、広報誌「だんだん」を作成し、家族へ配布をしている。家族には、利用者の担当職員の交代などを伝えることはできているものの、利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職が十分に伝わっていないことが窺えるため、面会時にお知らせしたり、請求書の送付時に事務連絡を添付したりするなど、理解が得られる取組みを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも面会でき、ご利用者様とゆっくりと過ごして頂ける様支援を行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りやバザー等、ご一緒に参加して頂ける様声掛けを行い、行事を楽しんで頂けるよう支援を行っている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月モニタリングを送付し、日常の生活の様子をお伝えする様にしている。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	気軽に連絡して頂き、不安な事等伝えて頂ける様、情報提供に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	なるべくご家族様にもご本人様をご理解して頂ける様、計画作成時には連絡を取り、関係作り協力して頂けるよう介護計画に反映させている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議にて行事や、職員の情報、事故等出来事について報告を行っている。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議で参加して下さっているご家族様は交流が図れている。また、5月に家族会も開催しており、今後も機会を作っていきたい。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	その方の起こり得るリスクについて入居時、来訪時、計画作成時にご説明させて頂き、対応策をお伝えし、話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時はできるだけ、お話しする時間を設け、気軽に相談できる様な関係作りを努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書に沿ってゆっくり説明し、具体的な例を挙げながら行っていると思う。途中で疑問点を尋ねるようになり、質問に答えながら納得した上で契約を締結している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	△	病気で長期入院になる場合等、契約に基づき、ご家族様に説明を行っている。また、事例はないが退去する場合は、退去先にスムーズに移れるよう支援していきたい。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約後、食費の改定があった際には設定理由と料金の内訳を文書で示し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の町内会長や民生委員、近隣の方々には、設立段階から事業所の目的や役割を説明し、理解を図っている。		◎		コロナ禍以前は、踊りなどのボランティアを受け入れたり、複合施設として、夏祭りを開催したり、利用者と一緒に地域の夏祭りや文化祭に出かけるなど、地域住民と交流を図ることができていた。また、複合施設の1階スペースを活用して、月1回、事業所として認知症カフェを行い、地域住民や利用者も参加することができていた。現在のコロナ禍において、地域住民と交流する機会は激減しているものの、秋祭りの際には、複合施設に神輿が来訪することができたほか、敷地内の散歩時に、地域住民とあいさつや会話を交わすこともある。さらに、複合施設・事業所には、地域の回覧板が回ってくるほか、市の広報誌を確認しながら、地域の行事などの情報を知ることができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の夏祭りに参加させて頂き、交流を図ることが出来ている。また敷地内の散歩をしている際等、日常的な挨拶も行えている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	今後、継続して交流を図り、支援して頂けるような関係作りに努めていきたい。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前はご利用者様の友人等が頻りに面会に来て下さり、他のご利用者様とも会話を楽しんでいたが、最近は見られなくなってきている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	敷地内の散歩をしている際等、気軽に声を掛けて下さっているが、立ち寄ってもらう等のお付き合いは出来ていない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣のボランティア等が来て下さり、踊りや歌の披露をして下さったり、折り紙を教えて下さったりしている。今後も継続して交流が図れるよう取り組んでいきたい。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	まだまだ把握できていない部分もあるが、地域資源でもある道後の足湯には、何度か出掛け、ご利用者様も楽しむ事が出来ている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の夏祭りに参加したり等、関係作りに努めているが、まだまだ関係を深める取り組みまでには至っていない。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ご利用者様も時々参加されており、ご家族様や地域の方には毎回参加して頂いている。	○		○	運営推進会議は、家族や町内会長、民生委員、公民館の祝谷分館、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。コロナ禍において、約2年間、会議は書面開催となっており、参加メンバーに入居者の状況や活動報告等に写真を添えて送付するとともに、返信用封筒を同封して、市担当者や祝谷分館などから意見をもらうことができていた。また、出された意見には、次回の会議資料で、対応状況を報告している。さらに、会議の報告は、家族に送付することができていないため、コロナ禍の収束後の集合形式の会議開催の際には、全ての家族に案内を送付したり、会議録を送付したりするなど、家族への周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	地域の行事やホーム内での行事を伝え、つながりを持てるようになってきている。外部評価の内容や目標達成計画についても報告を行っている。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの報告は多いが、民生委員や地域包括支援センター、市役所の方の意見を聞くようにしている。また、意見については職員間で共有するようしており、日々の取り組みに活かせる様努めている。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	現在第3月曜日に開催しており、参加メンバーは固定されてきている。市役所の方が出席しやすいように平日の14:00からの開催としている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	グループホームの玄関に閲覧できるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念について理解はしているも、日常的に取り組める所までには至っていない。職員間で実践していけるようフロア会等で話し合う機会を作る必要がある。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	分かりやすくお伝え出来る様には取り組んでいるが、全てのご家族様や地域の方々への発信はできていない。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内研修の計画を立て、その計画に沿って研修を進めていくよう取り組んでいる。	/	/	/	定期的に、複合施設の施設長の来訪があり、利用者の話しを聞いているほか、出退勤時等に職員の声を聞くことができる。月2回程度、法人内研修や事業所内の勉強会を実施し、参加した職員はレポートを提出するなど、職員のスキルアップに努めている。また、介護経験のない新入職員には、介護職員初任者研修を受講してもらうほか、担当職員に就いて心構えや声かけなどの基本から学ぶことができる。さらに、日々の業務の中で、管理者は職員一人ひとりの表情を確認するとともに、声をかけて、悩みなどの相談に応じている。加えて、法人・事業所として、職員に希望休や有給休暇の取得を促したり、職員同士の感謝の気持ちを伝える「ありがとうの木」を作成したり、ボランティア活動などで、「愛ポイント」を貯めて、商品券と交換するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	新人教育は行っているが、以外の職員のスキルアップに繋がるような取り組みは研修以外取り組めていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	お話はさせて頂いているが、その事が実際に反映されているかどうかが見られない。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や会議を通して、他施設との職員との交流を持てるようにしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスを軽減するための工夫や、環境作りが行われているかどうか分からない。	/	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や、チェックシートを用いて一人一人改めて見直せるよう取り組んで頂き、話し合い等で理解を深められるよう取り組んでいる。	/	/	/	定期的に、虐待防止や身体拘束防止等の勉強会を実施して、職員は理解している。また、定期的に、職員には、「不適切ケアチェックシート」を活用して、日々のケアの確認や振り返りをしてもらい、学びの機会にも繋げている。さらに、不適切なケアが起こらないように、日頃から職員同士で声をかけ合い、注意喚起をしている。加えて、不適切な行為を発見した場合には、管理者等が注意喚起を行うとともに、フロア会で周知するとともに、職員間で話し合いを行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りや会話の中で話し合う事、フロア会等を通して話し合える機会を作るようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切なケアについて注意はしているも、発見した場合の対応法は詳しく把握できていない。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の傾聴にも努め、ケアへ支障が出るといった場合にはその都度対応を行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	全ての職員への理解は詳しいところまではできていない。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束に関する勉強会を通して日々のケアを振り返りながらフロア会等で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族様から要望はまだ聞かれていないが、あった場合には話し合いをし、説明できるような取り組みを行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	全職員が把握や理解をする所までには至っていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	ご利用者様やご家族様の判断能力や生活状況の把握に努めているが、現在相談等はなく、今後は適切に対応出来る様努めていきたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	常に包括や専門機関との連携が取れるよう、運営推進会議等で話し合い、体制作りに努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故や急変時の対応マニュアルを作成し周知に努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	応急手当や、初期対応の訓練はまだ実施出来ておらず、今後機会を設け、定期的に行ってきたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告を職員に毎日書いていただき、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個別に事故やヒヤリハットの分析を行い、危険について話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成し、閲覧にて周知できている。対応方法については今後も検討していきたい。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は速やかに対応している。現在市長への報告は行っていないが、その都度必要な場合には、相談していきたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して対応策を検討し、施設長に報告、相談し速やかに回答したり、話し合いを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護計画作成時はゆっくり思いをお聞き出来る様、個別に聞ける機会を設けている。			○	法人・事業所として、入居時等に、家族に相談窓口が設置されていることを説明している。日常会話の中で、職員は利用者から意見や要望を聞くように努め、可能な範囲で対応をしている。また、家族には、面会時や電話連絡時に、職員は利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞くよう努めているものの、「おまかせします」という意見も多い。さらに、日々の業務の中で、管理者は利用者一人ひとりに声をかけ、意見や要望を聞くよう努めており、職員から出された意見で、利用者の転倒防止のため、人感センサーを設置した事例もある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や来訪時、また介護計画作成時に要望が聞ける様連絡し、個別に対応出来ている。		○		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に情報提供を行っている。その後は公的窓口の情報提供は出来ていない。随時対応していきたい。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	時々、ホームに来て下さり、職員の要望を聞く機会を作り、相談、報告できている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員会や、個別に聞く機会を設けて下さっている。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回、自己評価を実施している。				外部評価の自己評価は、年2回職員全員で取り組み、作成をしている。また、サービスの評価結果を運営推進会議の中で報告をするほか、職員にもフロア会等で周知を行い、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、外部評価の結果は、事業所内に配置し、来訪者等はいつでも閲覧できるようになっている。コロナ禍もあり、取組み状況のモニターにまでは至っていないため、コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族へモニターの周知を行うとともに、参加協力を呼びかけたり、行事に合わせて、運営推進会議を開催して、参加メンバーから意見を聞いたりするなど、サービスの向上に反映できるような取り組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	×	評価は実施したが、課題を明らかにする事がまだ、出来ていない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、計画に沿って事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議にて外部評価の結果報告を行っている。今後の取り組みのモニターはして頂いていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	フロア会や運営推進会議にて目標達成計画について報告は行ったが成果については確認できていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災や地震、風水害を想定したマニュアルを作成し、回覧にて周知できている。				複合施設・事業所は、松山市の土砂災害警戒区域にあり、避難確保計画を策定するとともに、市行政から福祉避難所に指定されている。また、年2回、複合施設と合同で、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。さらに、コロナ禍以前は、地域住民の参加協力を得て、避難訓練を実施することができていた。加えて、事業所の入り口には、避難経路等を掲示することができている。利用者家族等アンケート結果から、災害の備えに対する十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練に家族の参加を呼びかけたり、訓練の様子を事業所内に掲示したり、毎月送付する請求書等に合わせて、訓練時の様子を送付するなど、家族に安心安全な防災対策の理解が得られる取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災や地震、風水害のマニュアルに基づき訓練を行っている。火災については夜間帯と日動帯と想定し年2回訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	月に1回は備品チェックを行っており、避難経路、連絡方法についてもグループホームの入り口に掲示してある。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回消防署員の指導の下、避難訓練を行い、消防訓練、避難誘導、消防署への連絡等実施しているが、他事業所との連携は図れていない為協力、支援体制を確保していく必要がある。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	2月の消防訓練の際には、地域の方々にも参加して頂き共同訓練を行った。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	積み上げている認知症ケアの実践力を活かしておらず、情報の発信も不十分である。今後、地域の研修や介護教室等があれば参加していきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方々や入居希望で見学に来られた方に対して相談支援を行っている。		○	○	コロナ禍以前は、複合施設の1階スペースを活用して、月1回、事業所として認知症カフェを行い、地域住民の相談等に応じることができていた。また、複合施設・事業所として、2か月に1回、広報誌「だんだん」を作成して地域にも配布し、相談窓口があることを周知することができている。さらに、法人・複合施設として、奨学金制度を活用して、在留外国人の受け入れにも取り組んでいる。加えて、市行政や地域包括支援センター等との連携を図ることができている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方が集まる場所にはなっていないが、今後、地域の方が来やすい場所になる事が課題である。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	11月からではあるが、折り紙を教えてくださるボランティアの方に来ていただいている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域の川掃除に積極的に参加している。今後も地域活動を協働しながら行っていきたい。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890101656
事業所名 (ユニット名)	グループホームあいじゅ祝谷 祝
記入者(管理者) 氏名	佐々木 雅俊
自己評価作成日	令和 3年 1月 15日

<p>【事業所理念】</p> <p>「我が家のような居心地の良いサービスをお届けします」を基本理念とし、 祝言葉は ①役割を持って生き生きと ②安心して暮らせる第2の我が家となるように ③生きる力を最大限に活かせるような支援を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○職員は年2回自己評価チェックシートを用いた振り返りを行っているが、記入のみとなっており、自己の振り返りができていなかったため、年1回は各職員が他者評価もするようにしていく。次回は3月に実施する予定である。 ○居室の出入りについて、ノックをせずに入室することがあり、プライバシーに関して配慮不足な事があった為、勉強会で当事者体験を取り入れ実施する予定であるが、まだ実施できていない。 ○感染時期や重度の利用者等に関わらず、日常的に気軽な外出支援に取り組みできていなかったため、おむね月に1回ドライブ等外出する計画を立て実施できている。また、時々ではあるがテラスを用いてカフェを開くことも出来ている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のある建物は複合施設で、市中心部から少し離れた郊外の道路沿いに立地している。コロナ禍において、外出できる機会は減っているものの、天気の良い日には、敷地内の畑で野菜づくりをしたり、散歩を行ったりするなど、利用者が少しでも外気に触れ、気分転換が図れるよう努めている。また、音楽に合わせて3B体操をするほか、個別に脳トレや計算、ゲームなどを行い、利用者の心身機能の維持に努めている。オンライン機能を活用した面会や窓越しでの面会に対応するほか、毎月モニタリングの様式を家族に送付し、利用者の様子を伝えることができています。定期的に、事業所には複合施設の施設長の来訪があり、利用者の話や職員の声を聞くことができています。さらに、職員一人ひとりの表情を確認するとともに、声をかけて、悩みなどの相談に応じることができています。さらに、法人・事業所として、職員に希望休や有給休暇の取得を促したり、職員同士の感謝の気持ちを伝える「ありがとうの木」を作成したり、ボランティア活動などで、「愛ポイント」を貯めて、商品券と交換するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。加えて、コロナ禍以前は、複合施設の1階スペースを活用して、月1回、事業所として認知症カフェを行い、地域住民の相談等に応じることができていた。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○ 希望に合った生活ができるよう、日常生活の会話等から把握したり、声掛けに努めている。</p> <p>○ 生活歴などを踏まえ、穏やかに生活して頂けるよう検討している。</p> <p>○ ご家族様や友人の方が面会に来られた時や、ご家族様に連絡を取り、今までの様子を伺ったりしている。</p> <p>△ ご本人様の思いを記録に残し、情報共有するよう努めているが、思いを聞けていない事もある。</p> <p>△ 思いを見落とさないよう気をつけているが、職員の思い込みになっていることもある。</p>	○	△	△	△	○	入居前に、職員はアセスメントシートを活用して、利用者や家族から、職員は思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。また、日々の会話の中で、担当職員を中心に、利用者から思いや希望を聞き逃さないよう努めている。さらに、思いを言い表すことが難しい利用者には、職員から声をかけて、表情やしぐさから思いを汲み取るよう努めているほか、家族に電話連絡時等に確認をしている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○ 今までの生活歴や暮らし方などご家族様から話を聞くようにして把握に努めている。</p> <p>○ サービス担当者会議で話し合い、内容を共有し、把握に努めている。</p> <p>△ 不安な表情や不安定になられている時は対応している。全員の方のどんな場面で不安になられているかは把握し切れていない。</p> <p>△ 不安や不安定になられている要因について話し合いは行っているが本当にそれが要因かは分かりきれていない。</p> <p>○ 一人ひとりの流れを把握する為に24hシートを活用し記録に残すよう努めている。</p>	○	△	△	△	○	入居前に、事業所独自のアセスメントシートや基本情報シートを活用して、職員は利用者や家族から生活歴などを聞き、把握をしている。また、入居前に利用者が利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員から情報を聞いたり、病院からサマリーの提供を受けたりすることもある。さらに、日々の生活の中で、担当職員が利用者から情報を聞くほか、様子や状況を観察しながら、新たな情報の把握に努めている。加えて、把握した内容はアセスメントシート等に記載するとともに、介護計画の更新時に合わせて、担当職員を中心に、新たな情報を更新している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○ アセスメントの作成には、ご本人やご家族様から話を聞き、情報収集しご本人様の意向の把握に努め、介護計画作成の検討をしている。</p> <p>○ 定期的にサービス担当者会議を行い、ご本人様の視点で検討するようにしている。</p> <p>○ チームで評価を行い、課題を明らかにできるように話し合いをしている。</p>	○	△	△	△	○	事前に、職員は家族へ意向の確認に合わせて意見を聞くほか、受診時に主治医等から指示や意見を聞いている。また、事前に把握した情報をもとに、利用者が参加したサービス担当者会議を活用して職員間で話し合い、より良いサービス提供などを検討している。さらに、会議に参加していない職員には、事前に意見を聞いている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人様の思いをなるべく反映させながら、支援できる内容で作成している。				職員は家族から意見を聞くほか、受診時に主治医等からも意見を聞くことができています。また、利用者が参加したサービス担当者会議の中で、事前に把握した情報をもとに、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者が内容を取りまとめて、介護計画を作成している。さらに、利用者や家族から出された「日中に休む時間を取る、歩行練習を行う」などの意見を反映した計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々のケアについて職員で話し合い、ご家族様に伝え、意見をお聞きし介護計画の作成を行っている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族様と相談し、安心して生活が送れるような介護計画の作成を行っている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族様に協力して頂けるような内容も盛り込まれているが、地域の方たちの協力体制はない。今後地域の方たちの協力体制が作れるよう関係作りに努めていきたい。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	個人の記録ファイルに介護計画書を付け、内容を把握、理解し共有するよう努めている。				介護計画の内容は、サービス担当者会議の中で共有するとともに、ユニット内のスタッフルームに個別の記録ファイルを置き、職員はいつでも確認できるようになっている。また、介護計画のサービスの実施状況は、24時間シートに記載するほか、利用者の発した言葉や表情、しぐさなどを残すことができています。さらに、管理者等は、サービスの実施状況等が分かりやすいように、記録様式の変更を検討している。加えて、職員から「〇〇を取り入れた方がいいのでは」などの気づきやアイデアを出すことができています。介護経験の短い職員もおり、記録には個人差も見られる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日実施記録をし、また申し送りやノートで状況確認を行うようにしている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	24時間シートを活用し個別に記録を行っている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	24時間シートに個別に記録はしているが不十分な所も見受けられる。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間に応じて見直しを行っている。				◎ 短期目標の期間等に合わせて、3か月に1回を基本として、介護計画の見直しをしている。毎月、担当職員が24時間シート等で利用者の状態を確認して、モニタリングで評価を行うとともに、計画作成担当者も評価とコメントを記載している。また、毎月の請求書の送付に合わせて、モニタリングの様式を家族に送付し、利用者の様子を伝えることができています。さらに、利用者の入退院などの状態に変わった場合には、必要に応じて、サービス担当者会議を実施し、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行い、状況確認出来ている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合は、サービス担当者会議を行い、新しい計画書を作成するようにしている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月サービス担当者会議を行っている。緊急時もその都度開催するようにしている。				○ ユニット合同で、月1回フロア会議を開催するほか、介護計画の更新時期に合わせて、サービス担当者会議を開催し、職員間で話し合いをしている。緊急案件のある場合には、出勤職員等で話し合うとともに、感染症対策などの重要事項は、職員へ電話連絡をすることもある。また、月初めに、職員が参加しやすい日の調整を行い、15時30分頃から1時間程度の会議を設定しているものの、全ての職員の参加は難しいため、事前に参加できない職員の意見やコメントをもらっている。さらに、参加できない職員も合わせて、職員に会議録を回覧し、確認後には押印をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	参加者がたくさんの意見を出せるよう促している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	職員全員が参加対象で、日時場所は決まっているが業務時間内であり、全職員の参加は難しい。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	不参加の職員には議事録を渡している。また閲覧印が押せる様に表も作成している。その表により、全員が内容を把握しているか確認している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用して、情報共有し把握するよう努めている。				○ 朝夕に申し送りをを行い、口頭で伝達をするほか、申し送りノートを活用している。また、日誌や申し送りノートは、出勤時などに職員は確認して、押印をしている。さらに、押印等のない場合は、管理者がノート等を確認するように職員に声かけや伝言を残し、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭や重要な情報は申し送りノートに記入し、全職員に伝わるようにしている。	○			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望は聞くようにしているが、一人一人の思いを把握しそれを叶えることは出来ていない。				日々の生活の中で、担当職員等が利用者から、「散歩したい、おはぎが食べたい」などの思いを聞き、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、入浴時の着替えやバスタオルなどを利用者によって決めてもらうほか、職員が利用者に声をかけて、ぬり絵や編み物などのレクリエーション、おやつ、翌日着る服などを自己決定してもらえるよう努めている。さらに、事業所では、利用者一人ひとりの意向に沿った支援に努めるとともに、外に出て、花や野菜を見る場合には、生き生きとした表情が見られるなど、喜びや楽しみのある支援にも取り組んでいる。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来る限り、ご本人様に自己決定して頂けるよう努めている。			○		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	希望等を聞くようにしているが、ご本人様が納得されていない時もある。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	全てのご利用者様が一人ひとりのペースで支援できていない時もある。					
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ご利用者様が笑顔で過ごして頂けるよう毎日声掛けは必ず行っている。					○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	ご本人様の変化に気付く様、関わりや声掛けは必ず行い、ご利用者様の表情など少しの変化でもご本人様の反応などで確認するようにしている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	フロア会などにより話し合いを行う事はできているが、勉強会や研修がもう少し必要だと感じる。今後勉強会や研修の機会を増やしていきたい。	◎	◎	◎	職員は、法人内研修や事業所の勉強会で、人権や尊厳などを学ぶことができている。また、介護経験のない新入職員もおり、ベテランの職員が認知症のことや声かけの仕方などの接遇方法を伝えることもできている。また、大きな声を出すなど、不適切な行為が起こらないように、職員同士で声をかけ合うなど、適切な対応ができるよう努めている。さらに、トイレや居室等を、職員はプライバシーのある空間と認識しており、入室の際には、声かけやノックをして入室するとともに、不在時に事前に利用者へ声をかけてから入室することができている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	日常の業務に追われ、大きな声で接してしまっていたり、配慮に欠けている部分があるので、今後注意していく必要がある。					○
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄や入浴時には、その方の身体能力に合わせ、一人ひとり羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助するよう心掛けている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時には声掛けやノックをするようにしており、扉を開けっぱなしにしないよう心掛けている。					◎
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報等の書類は鍵を掛けて保管しているが、リビングに書類を出しっぱなしにしている等、様々な配慮が足りないこともあるため職員間で徹底するよう努めている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	一人ひとりと関わる時間も作り、助けを求めたり、教えてもらったりお互いに感謝し合う等の関係性を築くよう心掛けている。				洗濯物干しやたみ、食器洗いなど、利用者に手伝ってもらった場合には、職員から「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、少し元気のない利用者にも、他の利用者が励ましの声をかけたり、口の周りを拭いたりするなど、利用者同士で支え合う場面も見られる。さらに、職員は利用者同士の関係性を把握し、座席などの配慮をしている。時には、認知症の進行から、利用者同士が言い合いになることもあるものの、早期に職員が間に入るなどの対応をしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が気遣う場合もあり、上手くコミュニケーションが取れるよう支援している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	ご利用者様同士の関係性を把握、情報共有に努め日常生活での会話やレクリエーション、行事等を通して交流できる機会、環境作りを努め、お一人お一人、関わり、支え合い、共に生きていく共存を感じて頂けるような支援に努めている。					○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	座席をめぐる利用者様同士のトラブルが見られた際、座席に名前を書くなどして解消に努めた。日々の変化を観察し、トラブルの際には職員が間に入り支援できるよう努めている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	昔の事を思い出して頂けるよう、日常の会話やご家族の方々から聞き得た情報から把握、援助に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	一人一人に対して、日常の会話等で把握し情報共有するように努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ご家族様などの面会は常に行っているが、知人や友人、馴染みの場所への訪問は出来ない。今後は会話などからも情報を聞き取り、支援できるよう努めていきたい。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族様や知人、友人等の面会者もあり、今後も気軽に立ち寄れるよう環境作りに努めていきたい。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、利用者様の体調を見ながら戸外に散歩や外出支援を行っている。	○	○	○	コロナ禍においても、天気のいい日には、敷地内に出て、散歩や畑で野菜づくりを行い、利用者が少しでも外気に触れ、気分転換が図れるよう努めている。また、感染状況を見計らいながら、近隣の公園へ散歩に出かけたり、ドライブをして、さくらなどの花見に行ったりすることもできていた。さらに、事業所では外出できる機会が減っているものの、事業所内での体操や脳トレなどのアクティビティに、力を入れて取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力を得ながらの外出支援は行っていない。今後地域の方との交流を含め協力をお願いしていきたい。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	今現在重度の利用者様はおらず、今後利用者様が重度化していった場合、戸外に出て行くように支援していきたい。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	地域の人々と協力しながらは外出出来ない。ご利用者様の希望を聞きながら行事計画を立案し、近くの道後へ足湯などに行ったり、ご家族様との外出支援に努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者様一人ひとりの状態の変化や行動把握に努めているが、その症状を引き起こす要因やケアについては職員間で話し合い取り組んでいる。	/	/	/	事業所では、音楽に合わせて3B体操等をするほか、個別に脳トレや計算、ゲームなどを行い、利用者の心身機能の維持に努めている。また、足のむくみのある利用者には、医師の指示やアドバイスで、個別に足のマッサージなどを行う場合もある。さらに、食事の際などには、利用者のペースに合わせて、時間がかかっても自分で食べてもらい、見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の人たちの身体面、機能低下の特徴を理解し、日常の中でできる事を継続していけるような声掛けを行い、維持向上が図れるよう取り組みをしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者様の出来ること、出来そうなことの把握をしゆっくり見守りながら手や口を極力出さずに行っている。また、一緒に行うよう支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様の趣味等、好きなことを把握し、見守りながら一緒に行っている。また役割になるよう支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたみ、食器洗い、掃除、書道など、職員は利用者の得意なことを活かしながら、役割や出番づくりに努めている。また、編み物や裁縫が得意な利用者にも協力してもらい、防災頭巾を作成している。さらに、片麻痺のある利用者にも、ふきんを渡してテーブルを拭いてもらうなどの支援をすることもできている。加えて、コロナ禍で地域の文化祭が中止になったものの、開催の再開時の作品づくりに取り組んでいる利用者もいるなど、楽しみや張り合いが持てるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症の症状が進んでも楽しい日々が過ごせるようにご本人の出来そうな事を見出し、支援している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	今現在、地域の中で役割や出番もなく、支援できていないが、今後、地域の中での楽しみが持てるように支援していきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人様の好きな色や物を聞き、ご自分で出来る限り選んでもらえるよう、支援している。				前日の夜に、翌日に着る服を選んでもらい、自分で着替えや整容を整えている利用者もいる。また、食べこぼしや整容の乱れが見られた場合には、職員間で協力しながら、利用者に声をかけて、居室で着替えをしてもらうほか、さりげないフォローに努めている。さらに、意思を伝えにくい利用者には、家族に好みの服を持って来てもらったり、職員が声をかけて表情やしぐさから意向を汲み取ったりするなど、本人らしさが少しでも保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	持ち物等はご本人様の生活歴や希望に応じて対応し、また髪型や服装等、利用者様一人ひとりの個性を尊重して支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	服装等の自己決定が出来にくい利用者様には、アドバイスをし、ご本人様の気持ちに添える様支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や行事に合わせてその人らしい服装を選び、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れや衣類の汚れがないよう、その都度ケアに努め、さげなく身だしなみの支援をさせて頂いている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人様・ご家族様の希望により、月1回や2ヶ月に1回の散髪や毛染めが出来るように支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	今現在、重度な利用者様もおられず、今後、利用者様が重度化していった場合も同様に季節に応じた服装や本人らしさが保てるよう工夫や支援を行っていきたい。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の一連のプロセスの意味を理解し、食事中は、咀嚼や嚥下が問題なく行っているか必ず見守りを行い、支援している。				法人の管理栄養士が、利用者の好みや旬の食材を取り入れた献立を作成するとともに、複合施設の厨房で調理された食材が運ばれ、事業所内で炊飯を行い、利用者に食事を提供している。利用者は、食器洗いやテーブル拭き、おやつ作りなど、できることを手伝っている。入居時に、職員は利用者のアレルギーや苦手な食べ物を確認し、厨房の担当者に伝えて、代替えの食材を準備することができている。また、入居時に、使い慣れた箸や湯飲みなどを利用者へ持参してもらうほか、食事の際の食器類は、複合施設で用意をしている。食事の際には、利用者の見守りやサポートを優先し、職員は休憩時間に食事を摂っている。さらに、重度な利用者もリビングで食事を摂っており、職員はメニューを伝えながら、食事のサポートをしている。加えて、利用者の状態に合わせて、トロミや刻みなどの食の形態を職員間で話し合い、対応することもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	下膳などの後片付けは行えているが、食事は厨房より上がってくるので、買い物や食材選びは行っていない。コップなどの食器洗いはご利用者様と共に行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食事は厨房より上がってくるので、買い物や食材選びは行っていないが、コップなどの食器洗いはご利用者様と共に行っており、ご利用者様の力の発揮、自信、達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	鯖アレルギーの方がいる等、入居前の面談時や契約時にご本人様やご家族様とも確認し、アセスメントにより職員全員で情報共有できるよう努めているが、新しい職員など把握できていない職員もいる。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	食事は厨房で調理しており、ご本人様の好みや苦手なもの、アレルギー等も事前に打ち合わせを行い、一人一人にあった食事の提供をさせて頂いている。季節の食材も提供出来ている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	食事は厨房より、利用者様にあった食事形態で上がってきている。また、ご本人様の好みや苦手なもの等も打ち合わせを行い、一人一人に合わせて食事の提供をさせて頂いている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	湯のみはご本人様の使い慣れた物を使用しているが、茶碗や箸などは厨房から上がってきたものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と食事は別だが、一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べこぼしに対するサポートも行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今現在、それほど重度な利用者様はいらっしゃらないが、ご利用者様に当日のメニューを読み上げて頂いたりして、料理を思い浮かべてもらっている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事は栄養士が考えて献立を作っている。水分摂取は水分の進みが悪い利用者様には声掛けして飲んで頂いている。また、24時間シートで水分量の把握が出来ると支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご家族様にご協力して頂き、ご本人様のお好きなものを持参してもらったりしている。また、水分摂取が少ないご利用者様には、時間をずらしたり、水分ゼリーを提供するなど工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事は栄養士が献立を作っており、糖尿病のご利用者様に対しても栄養士と相談し、決められたカロリーで提供する等工夫している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房からの食事提供の為に任しているがホーム内で使用した調理器具や食器等はハイター消毒し、よく乾燥をかけている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後は必ず口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎にならないよう防止に努めている。また、職員が口腔ケアの必要性、重要性をさらに理解する為に研修に参加する等する必要がある。				毎食後に、職員は声をかけ、利用者は居室の洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。また、職員は見守りを行い、必要に応じて、磨き残しなどのサポートをするほか、口腔ケアシートを活用して拭き取りをするなど、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。さらに、自分で歯磨きができる利用者を含め、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、不具合や訴えのある利用者には、訪問歯科診療等に繋げることができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	ご自分で磨かれるご利用者様の口腔内はあまり把握できていない。義歯の状態については把握出来ており、不具合があれば歯科往診の際に調整してもらっている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診の際に口腔ケアの方法について教えて頂いた事を他の職員に伝え、支援できている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯を外して洗って頂いている。夕食後は洗ってから、洗浄剤につけて頂いている。ご本人様が出来ない方には付き添い、支援させて頂いている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後口腔ケアを行い、ご利用者様の出来ることは声掛けして促しており、磨き残しについてはサポートさせて頂き、口腔内の清潔保持に努めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	義歯の不具合等があれば管理者やご家族様に報告、相談をして歯科受診が出来るように対応している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ご利用者様への自尊心を傷付けずにトイレで排泄できるよう誘導を行い支援しており、身体機能を高めることにつながることを理解している。				日中に紙パンツで過ごし、夜間のみ、おむつを使用している利用者もいる。24時間シートなどのチェック表で、利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、職員は声かけやトイレ誘導を行い、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、フロア会の中で、パッドや紙おむつなどの排泄用品の必要性などを話し合い、家族に確認の上で使用している。さらに、ごまめなトイレ誘導を行うことで、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。加えて、事業所では運動や水分補給などの便秘対策で、自然排便ができるよう努めるとともに、利用者の体調面を考えて医師に相談を行い、下剤などの服薬をしている利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分不足等が原因の一つであることは理解しており、少ない場合は、摂取して頂くよう声掛けを行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ご利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その時々に合わせてトイレ誘導等の声掛け等を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	紙パンツやパッドの使用に関して常に見直しを行い、早めにトイレ誘導をする等トイレで排泄できるよう支援している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排尿間隔が空くご利用者様に関して、腹圧を掛ける等、少しでも改善できる点はないか、ご本人様のパターンを把握し、改善に向けて声掛けや主治医とも相談を行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	トイレ誘導等ご本人様のパターンに合わせて、早めの声掛け等を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツやパッドの使用については、ご家族様や職員間でとも相談した上でご本人様に合った物を使用できるよう支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	ご利用者様一人ひとりの状態に合わせて下着や紙パンツ、オムツ等適時使い分けるよう支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	身体を動かして頂いたり、水分が少ない方に対しては、水分を摂取して頂く等声掛けや提供の仕方を工夫して、自然に排便が促せるよう声掛けを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるように支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	浴槽の温度や入浴時間の長さ等、利用者様の好みで入浴できるように支援しているが曜日や時間帯は業務のペースに合わせてしまっている事がある為、希望に添える様にしていきたい。		◎	○	週2回、利用者は入浴することができる。事業所で入浴できる時間帯は決まっているものの、入浴時間の長さや湯の温度など、利用者の好みに応じて、柔軟に対応している。また、利用者にタオルを渡して全身を洗ってもらい、職員は洗えていない部分の介助をしている。さらに、「寒い、寝ておきたい」など、入浴を嫌う利用者には、職員が時間帯や日にちを変えて、声かけや誘い方を工夫するなど、入浴してもらうことができている。加えて、入浴剤や好みのシャンプーを使用するなど、利用者が入浴を楽しめる工夫にも努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	個々に合った浴槽の温度や入浴時間を把握し、一人ひとりがくつろいだ気分に入浴できるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自分で出来ることはして頂くようにし安心して入浴できるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	入浴を拒む利用者様に対しては、拒む理由を傾聴して時間を空けたり順番を変えたりして声掛けを行っているが、なかなかうまくいかない事もある。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にはバイタル測定を行っており、健康状態を把握して入浴して頂いている。また入浴後も状態確認に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	24時間シートを用いて個々の睡眠パターンを把握し、声掛けを行い、睡眠を促している。				事業所には、眠剤などを服用している利用者もいる。事業所では、24時間シートを活用して、利用者の睡眠状況を確認している。中には、昼夜逆転している利用者もあり、医師へ相談するほか、職員間で話し合い、中には極力起きて、散歩や運動などの活動をしてもらい、夜間に安眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れない利用者様については、ご本人様の習慣を把握し、その習慣に応じて日中活動して頂けるよう声掛けを行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中傾眠気味の利用者様の場合は、日中活動ができるよう声掛けを行い、夜間休めるよう支援している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様の状態に応じて、30分程度の昼寝ができるよう支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	「息子に電話したい」とおっしゃられる利用者様には適宜電話をかけお話ができるよう支援している。お話しをする事で落ち着かれる事もある。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙を書いて送る等、どこかで「できない」と思ってしまう等、必要な手助けをする等の支援は不足している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあった利用者様には適宜電話が出来るよう配慮し、支援している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	必要な葉書は、利用者様に確認している。友人等からの手紙や葉書はまだ届いたことがない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	ご本人が電話をかけることについては家族様に理解して頂いているが、ご家族様からの電話はあまりない。出来るだけ次回もかけて頂きやすいような受け答えをさせて頂いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	利用者様が現金を持つ際には職員も把握し、欲しい物などの購入が出来るように支援している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	移動スーパーが週2回来られているが、必要物品は職員で買い物に行き購入しており、お金の使う機会は作れていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	移動スーパーが週2回来られているが、必要物品は職員で買い物に行き購入しており、利用する事は少ない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご本人がお金の所持を希望している際には、ご家族様と相談しながら所持したりして支援しているが、使う機会はほとんどない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご利用者様本人と、ご家族様と話し合せて事務所で管理したり、ご本人が所持したりしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご利用者様が金銭の管理ができない場合には、事務所でお預かりする等している。それについても契約時にご本人様、ご家族様に同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	トレーニングルームの使用をご希望されたご家族様に対して意向をお伺いし、少しでも意向に添える様、施設全体で考え取り組めるよう行っている。	◎	◎	コロナ禍において、事業所では面会や外出などの制限があるものの、利用者や家族の要望に応じて、可能な限り柔軟な対応をしている。また、「病院受診の希望、外に出たい」などの要望が出された場合には、職員が臨機応変に対応をしている。さらに、最近入居した利用者の家族から、「週1回、帰宅させてほしい」などの要望が出され、コロナ禍の落ち着いた際には、対応を予定している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	複合施設のためどうしても家庭的な雰囲気には欠けるが、グループホームの玄関入り口には季節の飾り付けをする等工夫をしている。	◎	◎	○	事業所は複合施設の2階にあるものの、1階には複合施設の事務所があり、来訪者には職員が声をかけてくれるようになっている。また、複合施設は道路沿いにあり、分かりやすい場所に立地している。さらに、2階の事業所の入り口には、飾り付けを行い、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有空間が快適なものになるよう清掃や障害物を片付ける等の対応は出来ている。また、季節の飾り付けを利用者様と作り壁や天井に飾り付けを行い、工夫している。	◎	◎	○	まもなく4年を迎える事業所は新しく、職員が清掃や消毒を行うほか、空気清浄機などを置いて換気が行われ、快適な空間となっている。職員はこまめに清掃を行い、いやな臭いがしないよう努めている。また、廊下などには極力物を置かず、動線を確保するとともに、所々にソファを置き、利用者が座って休憩できるようにしている。さらに、複合施設の敷地内には畑や花壇があり、利用者が大根などの野菜づくりを行い、収穫を楽しむこともある。加えて、事業所では、季節に応じた飾り付けを行い、利用者や来訪者が季節を感じられるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	館内にはクラシックや季節の音楽を流しており、こまめに掃除もやっている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ご飯をユニット内で炊くことで食欲を促したり、季節の外出行事等で刺激を取り入れることで、五感に働けるよう促している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングではご利用者様同士で会話をしたり、季節の飾り付けの製作をされたりと思い通りに過ごして頂いている。				
		e	トイレや浴室の内部が見えないよう、プライバシーを尊重し戸を開めるようにしている。	○	トイレや浴室の内部が見えないよう、プライバシーを尊重し戸を開めるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものや好みのものが活かされるように面会時等にご家族様とも相談し、出来る限り支援できている。家族様との連携を大切にしている。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、洗面台、整理ダンス、クローゼットが備え付けられている。また、入居時に、事業所では馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができることを伝え、家族の写真やテーブルなどを持ち込み、居心地良い空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	障害物を除ける等、日常の中での危険性を低くする為の配慮は行っており、スタッフ同士協力しながら見守り強化に努めている。また、ご本人様の出来る事はなるべく頂くようにしている。			○	事業所の建物は新しく、手すりが設置されているほか、段差がないバリアフリー構造で、利用者は安心安全に移動することができる。また、入居間もない利用者には、居室の入り口に名前などの目印を付けるほか、トイレを大きく表示するなど、間違えないよう工夫している。さらに、フロアには、編み物などの本やCDラジカセを置き、利用者が自由に手に取れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	ご家族様が持ってこられたキャスター付きの台など、間違えて支えにはいけないので、危ないものは近くに置かないようにして、安全に生活が出来るよう支援している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ご本人やご家族様と情報の共有をしながら、支援に努めている。出来る限り、馴染みの物等を置くようにしている。また、ほうきやクイックワイパー等を使用して掃除もお手伝い頂き、活動意欲が持てる様支援に努めている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態では暮らしの不安、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	施設全体が電子ロックを使用していて、全ての開放は不可能であるが、ユニットの外に出たい時は出られるよう支援している。ただ、閉塞感を感じられている。	◎	◎	○	複合施設の玄関や出入り口は、オートロックの構造となっており、入居時に、事業所では利用者の安全面等を考えて、事業所の出入り口をロックしていることを家族に説明をしている。また、扉の近くに来る利用者や外に出たい利用者には、職員が付き添い、敷地内などを散歩するなどの対応をしている。さらに、定期的に身体拘束等の勉強会を実施し、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族様へは、施錠に関し安全確保を優先させて頂き、理解して頂けるよう説明している。また、ご家族様と話し合い、クローゼットの施錠を行っているご利用者様もいる。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	施設全体が電子ロックを使用しているが、外出や散歩など可能な限り支援するようになっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	基本情報やアセスメントの書類、サービス担当者会議等で情報共有できており、把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	起床時にバイタル測定を行い、入浴時には全身観察をしている。また、変化があれば24時間シートに記入し、職員間で情報共有している。今後も早期発見に心掛けていきたい。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	概ねのご利用者様のかかりつけ医とは、24時間連絡が取れる体制が整っており、何かあればかかりつけ医に相談、報告を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご本人様や家族様が希望する病院の受診が出来るようにご希望を伺い、希望する医療機関に受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人様や家族様が希望する病院へ受診が出来るようにご希望を伺い、希望する医療機関に受診できるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院前にはご家族様に連絡を行い、同意の上、行っており、通院後もご家族様に結果報告を行っている。また、ご家族様対応の場合においても情報共有が出来るようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は、医療機関へ情報提供をし、ご本人の負担軽減に努め、スムーズな連携が出来るように支援している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	必要な情報は提供しており、病院との連携を密にして、細めに情報交換する等、連絡を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院した場合に備えて情報交換等をし、連携を行っている。また、受診時にコミュニケーションを取るよう努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	グループホーム内に看護職員はいないが、協力機関の長戸クリニックに往診に来ていただいているので相談などしている。また特変などがあれば、その都度連絡し、相談や報告を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	急変や何か変化があれば協力医療機関のながとクリニックに24時間いつでも連絡可能となっており、相談することができる体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックや必要に応じたチェックを適切に行えるようにしている。また、特変があれば医療機関に報告するようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬の効果や注意事項について把握を行い、新たに処方があればそれについても確認し、情報共有をすぐに行うように努めているが、全ての把握はできていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	誤薬がないよう服薬時には必ずダブルチェックをするようにしている。また、飲み忘れがないように薬の空袋の最終チェックもやっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態変化については、24時間シートに記入している。また、薬が変更になった場合などは副作用がないかの確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	ご本人様の状態変化があれば24時間シートに記入し、ご家族様や医師に相談し早めに対応している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に重度化した場合と終末期について説明している。体調変化の際にも再度説明を行い、ご家族、医師、事業所で話し合いの場を設け、出来る事を相談しながらチームで支援に取り組んでいけるように努めている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応及び看取りに関する方針」があり、入居時に家族に説明し、意向などを確認している。また、利用者の状態の変化に応じて、家族等に意向を確認するほか、医師等を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、開設して約4年を迎える事業所では、看取り介護の経験は少ないものの、ここ1年で1件の看取り支援があり、職員への研修を行うとともに、複合施設の看護師や医師と連携を図りながら支援を行うことができた。加えて、医師と24時間体制で連携を図ることができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合と終末期について説明している。また、かかりつけ医、ご本人様、ご家族様との話し合った内容については記録に残し、職員も共有できている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	終末期の対応についてまだ事例はないが、今後職員の体験や力量を分析し、何処までの支援ができるかの見極めを行う必要がある。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度出来ること、出来ないことの方針について十分に説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	重度や終末期を迎えた利用者様の事例はまだないが、連携の体制は出来ている。しかし、チームとして不足している部分もあると思うのでチームで支援できるようにしていきたい。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	重度や終末期を迎えた利用者様の事例はまだないが、ご家族様の思い等、その都度ゆっくり聞き少しでも不安など取り除けるよう心掛けていきたい。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症マニュアルや研修にて定期的に学んでいる。また、MRSAのご利用者様が入所された場合にも職員全員に周知対応策などをその都度学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	手順書を感染症キット保管場所にラミネートし一緒に置くよう作成しているが、本年度はグループホームで勉強会を行っておらず、今後実施していく必要がある。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政などの情報を入手して取り入れ、予防や対策に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行時には注意して情報収集に努め、職員や病院からの情報など随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は徹底して行っており、ご利用者様や面会の方にもマスクの着用・消毒を実施している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族様との関係を築き、ご利用者様により良い支援が行えるよう努めている。				コロナ禍において、家族が来訪できる機会は減少しているものの、オンラインを活用した面会や窓越しでの面会にも対応している。また、毎月の請求書の送付に合わせて、モニタリングの様式を家族に送付し、利用者の様子を伝えるとともに、電話でも報告をしている。さらに、複合施設として、広報誌「だんだん」を作成し、家族へ配布をしている。家族には、利用者の担当職員の交代などを伝えることはできているものの、利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職が十分に伝わっていないことが窺えるため、面会時にお知らせしたり、請求書の送付時に事務連絡を添付したりするなど、理解が得られる取組みを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時は、ゆつくりと過ごして頂けるよう好きな場所で過ごして頂いている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭りやバザー等、ご一緒に参加して頂ける様声掛けを行い、行事を楽しんで頂けるよう支援を行っている。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月モニタリングを送らせて頂き、ご様子をお伝えしている。また、随時連絡をして報告するなどしてお伝え出来ている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	質問や相談があった場合、速やかに報告するよう努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い支援を行えるよう、変化がある時などその都度ご説明させて頂き、一緒に支援できるよう努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議で報告を行っている。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議で参加して下さっているご家族様は交流が図れている。また、5月に家族会も開催しており、今後も機会を作っていきたい。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時や来訪時・計画作成時に状態で考えられるリスクのご説明をし、対応等について話し合いを行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時には日常の様子をお伝えし、積極的に交流を図るよう努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書に沿ってゆつくり説明し、具体的な例を挙げながら行っていると思う。途中で疑問点を尋ねるようにしたり、質問に答えながら納得した上で契約を締結している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	病気で長期入院になる場合等、契約に基づき、ご家族様に説明を行っている。また、退去先にスムーズに移れるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約後、食費の改定があった際には設定理由と料金の内訳を文書で示し、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の町内会長や民生委員、近隣の方々には、設立段階から事業所の目的や役割を説明し、理解を図っている。	/	◎	/	コロナ禍以前は、踊りなどのボランティアを受け入れたり、複合施設として、夏祭りを開催したり、利用者と一緒に地域の夏祭りや文化祭に出かけるなど、地域住民と交流を図ることができていた。また、複合施設の1階スペースを活用して、月1回、事業所として認知症カフェを行い、地域住民や利用者も参加することができていた。現在のコロナ禍において、地域住民と交流する機会は激減しているものの、秋祭りの際には、複合施設に神輿が来訪することができたほか、敷地内の散歩時に、地域住民とあいさつや会話を交わすこともある。さらに、複合施設・事業所には、地域の回覧板が回ってくるほか、市の広報誌を確認しながら、地域の行事などの情報を知ることができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の夏祭りに参加させて頂き、交流を図ることが出来ている。また敷地内の散歩をしている際等、日常的な挨拶も行えている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	今後、継続して交流を図り、支援して頂けるような関係作りに努めていきたい。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前はご利用者様の友人等が頻りに面会に来て下さり、他のご利用者様とも会話を楽しんでいたが、最近は見られなくなってきている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	敷地内の散歩をしている際等、気軽に声を掛けて下さっているが、立ち寄ってもらう等のお付き合いは出来ていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣のボランティア等が来て下さり、踊りや歌の披露をして下さったり、折り紙を教えて下さったりしている。今後も継続して交流が図れるよう取り組んでいきたい。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	まだまだ把握できていない部分もあるが、地域資源でもある道後の足湯には、何度か出かけ、ご利用者様も楽しむことが出来ている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の夏祭りに参加したり等、関係作りに努めているが、まだまだ関係を深める取り組みまでには至っていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ご利用者様も時々参加されており、家族様や地域の方には毎回参加して頂いている。	/	○	○	運営推進会議は、家族や町内会長、民生委員、公民館の祝谷分館、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。コロナ禍において、約2年間、会議は書面開催となっており、参加メンバーに入居者の状況や活動報告等に写真を添えて送付するとともに、返信用封筒を同封して、市担当者や祝谷分館などから意見をもらうことができていた。また、出された意見には、次回の会議資料で、対応状況を報告している。さらに、会議の報告は、家族に送付することができていないため、コロナ禍の収束後の集合形式の会議開催の際には、全ての家族に案内を送付したり、会議録を送付したりするなど、家族への周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	地域の行事やホーム内での行事を伝え、つながりを持てるようになってきている。外部評価の内容や目標達成計画についても報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの報告は多いが、民生委員や地域包括支援センター、市役所の方の意見を聞くようにしている。また、意見については職員間で共有するようしており、日々の取り組みに活かせる様努めている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	現在第3月曜日に開催しており、参加メンバーは固定されてきている。市役所の方が出席しやすいように平日の14:00からの開催としている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	グループホームの玄関に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念について理解はしているも、日常的に取り組める所までには至っていない。職員間で実践していけるようフロア会等で話し合う機会を作る必要がある。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	分かりやすくお伝え出来る様には取り組んでいるが、全てのご家族様や地域の方々への発信はできていない。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修の計画を立て、その計画に沿って研修を進めていくよう取り組んでいる。	/	/	/	定期的に、複合施設の施設長の来訪があり、利用者の話しを聞いているほか、出退勤時等に職員の声を聞くことができる。月2回程度、法人内研修や事業所内の勉強会を実施し、参加した職員はレポートを提出するなど、職員のスキルアップに努めている。また、介護経験のない新入職員には、介護職員初任者研修を受講してもらうほか、担当職員に就いて心構えや声かけなどの基本から学ぶことができる。さらに、日々の業務の中で、管理者は職員一人ひとりの表情を確認するとともに、声をかけて、悩みなどの相談に応じている。加えて、法人・事業所として、職員に希望休や有給休暇の取得を促したり、職員同士の感謝の気持ちを伝える「ありがとうの木」を作成したり、ボランティア活動などで、「愛ポイント」を貯めて、商品券と交換するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	新人教育は行っているが、以外の職員のスキルアップに繋がるような取り組みは研修以外できていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	お話はさせて頂いているが、その事が実際に反映し整備されているかどうかが見られない。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や会議を通して、他施設の職員と交流を持てるようにしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスを軽減するための工夫や、環境作りが行われているかどうか分からない。	/	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や、チェックシートを用いて一人一人改めて見直せるよう取り組んで頂き、話し合い等で理解を深められるよう取り組んでいる。	/	/	/	定期的に、虐待防止や身体拘束防止等の勉強会を実施して、職員は理解している。また、定期的に、職員には、「不適切ケアチェックシート」を活用して、日々のケアの確認や振り返りをしてもらい、学びの機会にも繋げている。さらに、不適切なケアが起こらないように、日頃から職員同士で声をかけ合い、注意喚起をしている。加えて、不適切な行為を発見した場合には、管理者等が注意喚起を行うとともに、フロア会で周知するとともに、職員間で話し合いを行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りや会話の中で話し合ったり、フロア会等を通して話し合える機会を作るようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切なケアについて注意はしているも、発見した場合の対応法は詳しく把握できていない。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の思いに対し傾聴に出来る限り努め、ケアへ支障が出ないよう対応し、その都度注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	全ての職員が正しく理解するところまではできていない。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束に関する勉強会を通して日々のケアを振り返りながらフロア会等で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族様から要望はまだ聞かれていないが、あった場合には話し合いをし、説明できるような取り組みを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全職員が学び、把握や理解をする所までには至っていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	ご利用者様やご家族様の判断能力や生活状況の把握に努めているが、現在相談等はなく、今後は適切に対応出来る様努めていきたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	常に包括や専門機関との連携が取れるよう、運営推進会議等で話し合い、体制作りに努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故や急変時の対応マニュアルを作成し周知に努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	応急手当や、初期対応の訓練はまだ実施出来ておらず、今後機会を設け、定期的に行ってきたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告を職員に毎日書いていただき、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個別に事故やヒヤリハットの分析を行い、危険について話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成している。対応方法については今後も検討していきたい。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情対応マニュアルに沿って、速やかに対応を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情時は速やかに対応し、ご家族様との関係性を継続するよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ご利用者様からの要望や苦情は何うことはあるが、支援の中で解決出来ている。			○	法人・事業所として、入居時等に、家族に相談窓口が設置されていることを説明している。日常会話の中で、職員は利用者から意見や要望を聞くように努め、可能な範囲で対応をしている。また、家族には、面会時や電話連絡時に、職員は利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞くよう努めているものの、「おまかせします」という意見も多い。さらに、日々の業務の中で、管理者は利用者一人ひとりに声をかけ、意見や要望を聞くよう努めており、職員から出された意見で、利用者の転倒防止のため、人感センサーを設置した事例もある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や来訪時、また介護計画作成時に要望が開ける様連絡し、個別に対応出来ている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に情報提供を行っている。その後は公的窓口の情報提供は出来ていない。随時対応していきたい。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	必要に応じて意見や要望、提案などを行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人一人の意見や提案など聞くようにしており、ご利用者様本意の支援が行えるよう努めている。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回行っていることで、意義や目的を理解し自己の振り返りにもなっていると思われる。				外部評価の自己評価は、年2回職員全員で取り組み、作成をしている。また、サービスの評価結果を運営推進会議の中で報告をするほか、職員にもフロア会等で周知を行い、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、外部評価の結果は、事業所内に配置し、来訪者等はいつでも閲覧できるようになっている。コロナ禍もあり、取組み状況のモニターにまでは至っていないため、コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族へモニターの周知を行うとともに、参加協力を呼びかけたり、行事に合わせて、運営推進会議を開催して、参加メンバーから意見を聞いたりするなど、サービスの向上に反映できるような取り組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	×	今後、現状や課題を明らかにし、意識統一や学習の機会に活かせるよう取り組んでいきたい。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、計画に沿って事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議にて外部評価の結果報告を行っている。今後の取り組みのモニターはして頂いていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	フロア会や運営推進会議にて目標達成計画について報告は行ったが成果については確認できていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	火災や地震、風水害を想定したマニュアルを作成し、回覧にて周知できている。				複合施設・事業所は、松山市の土砂災害警戒区域にあり、避難確保計画を策定するとともに、市行政から福祉避難所に指定されている。また、年2回、複合施設と合同で、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。さらに、コロナ禍以前は、地域住民の参加協力を得て、避難訓練を実施することができていた。加えて、事業所の入り口には、避難経路等を掲示することができている。利用者家族等アンケート結果から、災害の備えに対する十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練に家族の参加を呼びかけたり、訓練の様子を事業所内に掲示したり、毎月送付する請求書等に合わせて、訓練時の様子を送付するなど、家族に安心安全な防災対策の理解が得られる取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災や地震、風水害のマニュアルに基づき訓練を行っている。火災については夜動帯と日動帯と想定し年2回訓練を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	月に1回は備品チェックを行っており、避難経路、連絡方法についてもグループホームの入り口に掲示してある。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回消防署員の指導の下、避難訓練を行い、消防訓練、避難誘導、消防署への連絡など実施しているが、他事業所との連携は図れていないため協力、支援体制を確保していく必要がある。	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	2月の消防訓練の際には、地域の方々にも参加して頂き共同訓練を行った。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	積み上げている認知症ケアの実践力を活かしておらず、情報の発信も不十分である。今後、地域の研修や介護教室等があれば参加していきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方々や入居希望で見学に来られた方に対して相談支援を行っている。		○	○	コロナ禍以前は、複合施設の1階スペースを活用して、月1回、事業所として認知症カフェを行い、地域住民の相談等に応じることができていた。また、複合施設・事業所として、2か月に1回、広報誌「だんだん」を作成して地域にも配布し、相談窓口があることを周知することができている。さらに、法人・複合施設として、奨学金制度を活用して、在留外国人の受け入れにも取り組んでいる。加えて、市行政や地域包括支援センター等との連携を図ることができている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	地域の方が集まる場所にはなっていないが、今後、地域の方が来やすい場所になる事が課題である。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	11月からではあるが、折り紙を教えてくださるボランティアの方に来ていただいている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域の川掃除に積極的に参加している。今後も地域活動を協働しながら行っていきたい。			○	